職務経歴書

2023 年 11 月 15 日現在
氏名：ワーク太郎

■職務経歴概要

大学院博士課程を卒業後、株式会社 AAAAAAA に入社。6 年間研究開発部における自社製品向けの●●材料の材料組成・材料製法・デバイスプロセス開発を行うグループに所属し、学生時代の基礎物理の知識を生かしながら、●●材料にかかわる実験・解析手法を幅広く身に着け、社内プロジェクトに貢献しました。
その後、株式会社 BBBBBBB へ入社し、自動車塗料事業部にて前処理溶液、電着塗料の新製品向けの研究開発や承認活動、それに伴い合成を伴う製品開発や評価解析を中心に行ってまいりました。

■得意とする経験・分野・スキル

・幅広い材料・製品分析から得た分析力
・企画から仕様検討・材料選定・配合設計・試作検討評価

■会社履歴

期間	会社名
20XX 年 XX 月～現在	株式会社 BBBBBBB
20XX 年 XX 月～20XX 年 XX 月	株式会社 AAAAAAA

■職務経歴詳細

株式会社 BBBBBBB　　20XX 年 XX 月～現在

事業内容： 化学・石油・ガラス・セラミック・セメントなどの製造販売
従業員数：●名
資本金：●万円

期間	業務内容	職位
20XX 年 XX 月 ～ 20XX 年 XX 月	【職務】 新製品向けの研究開発や承認活動 【担当分野】 防錆技術全般 （前処理、電着） 【職務詳細】 ・現行品評価および新材承認活動、それに伴うレポートの作成・提出 ・顧客提出用サンプル作成 ・顧客対応業務（レポート作成、カスタマーサポート、不良解析） ・チーム内プロジェクトマネジメント 【取り組みと成果・評価】 ・過去 3 年間で 5 つの承認活動に携わり、うち 4 つの承認を得る。	

20XX 年 XX 月 ～ 20XX 年 XX 月	【職務】 分析試験 【職務詳細】 ・現行品評価および新材承認活動、それに伴うレポートの作成・提出 ・分析機器を使用しての社内・社外の試験サポート 【取り組みと成果・評価】 ・DMA、FT-IR、SEM 等を利用しての分析を行う。 ・各自動車メーカー指定の試験水準に沿った各種試験を執り行う。	
20XX 年 XX 月 ～ 現在	【職務】 防錆技術全般 （前処理、電着）に関する承認関連活動等 【担当業務】 ・現行品評価および新材承認活動、それに伴うレポートの作成・提出 ・顧客提出用サンプル作成 ・顧客対応業務（レポート作成、カスタマーサポート、不良解析） ・チーム内プロジェクトマネジメント 【取り組みと成果・評価】 ・現在日系自動車メーカー2 社のボデー、バンパー新製品承認活動中、 それに伴い添加剤の付与等にて改善を社内にて展開。	

株式会社 AAAAAAA　　20XX 年 XX 月～20XX 年 XX 月

事業内容：電気部品・電子部品の製造販売
従業員数：●名
資本金：●万円

期間	業務内容	職位
20XX 年 XX 月 ～ 20XX 年 XX 月	東京本社　配属 新人研修	

20XX年XX月 ～ 20XX年XX月	【職務】 磁性材料開発 【職務詳細】 磁性部品の軟磁性材料開発において、下記を担当 ・組成開発、 　・連携先大学への出向(半年)し、基礎的な材料組成開発に挑戦 　・開発ベース組成から、量産向け組成へ調整を担当 ・材料製法開発（金属箔、金属粉末)、 　・ゼロベースからの開発だったが、外注先他社との関係性維持のため 　　機密案件となったため、特許は社内届出特許5件を作成 　・国プロ費用で約1億円の設備導入を2案件担当し、 　　製法開発用の設備の主担当として従事 ・プロセス開発（成形、熱処理） 　・開発基礎検討として、加圧成型品の基礎特許2件取得	

■PCスキル/テクニカルスキル

・TOEIC　xxx点（20xx年xx月取得）

・Word、Excel

■自己PR

幅広い材料・製品分析から得た分析力

現在の主業務である開発材料および全社製品の分析によって、様々な材料の知見を得るとともに課題に適したアプローチ方法を習得してきました。依頼分析では単なる要求されたデータの提出ではなく、依頼者との打ち合わせにより本質的な課題を見出し、解決策を提案していくことを常に意識し実践してきました。その結果として、事業部への社長指示での相談や、親会社で分析が困難と判断された案件が、分析グループに依頼される地盤を築くことができました。また、個人レベルでは研究開発部内のメンバーから解析手法や課題解決方法についての相談を日常的に受けており、これまで示してきた分析力が信頼されているためと考えております。使用する装置に依存する分析データではなく、課題解決に結びつけるための分析力は、分析対象が変わっても発揮できる重要なスキルだと考え、日々精進しています。

部署を超えた人脈形成力

入社直後に配属された材料開発においては、材料製法の検討をほぼゼロベースから開発する必要がありました。また、国プロ費用も活用しての社内プロジェクトであったため、短納期での目標達成が求められましたが、無事に期間内に国プロ評価目標をクリアすることができました。その中で、開発加速化のためにはチーム内の協力だけではなく、他事業部の部長に設備改造・設計を依頼し、工務保全部へ装置立ち上げの協力を仰ぐなど、部署外の力も得て開発を進めていく重要性を学びました。

現在の分析グループに配置転換後も、その際に得た縁を頼りに分析設備導入時に事前相談し助言を頂いたり、私が配属前はなかった部署からの依頼を受けたりと良好な関係を保っています。部署内に留まらない人脈形成は、自分の能力以上の結果を出すために重要な因子であると考えるともに、私のコミュニケーシ

ョン能力の表れだと考えています。

今後もさらなるキャリアアップを図っていきたいと考えております。
是非、面接の機会をいただければと思います。何卒よろしくお願い申し上げます。

以上